

令和7年度第1回軽井沢町学校運営協議会 会議録

1. 開催日時 令和7年11月4日（火） 14時30分～15時45分

（授業等見学：13時40分～14時20分）

2. 開催場所 軽井沢中学校 大会議室

3. 出席者 委員等：細萱 委員、松村 委員、松葉 委員、上原 委員、
土屋（隆） 委員、牧山 委員、栗岩 委員、土屋（栄） 委員、
松平 委員、福原 委員、森 委員
軽井沢東部小学校 川崎 校長、軽井沢中部小学校 阿部 校長、
軽井沢西部小学校 久保 校長、軽井沢中学校 山崎 校長
事務局：こども教育課学校教育係 金井 課長補佐兼係長、柳原、豊嶋

4. 議題

- （1）各学校経営方針について
- （2）学校と地域との関わりについて

5. 傍聴人数 0名

6. 議事内容

1. 開会

【事務局】

皆様お疲れ様です。時間になりましたので、ただいまより令和7年度第1回軽井沢町学校運営協議会を開催いたします。本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。さきほど授業見学をしていただいた委員の方にはアンケートをお配りしています。こちらのアンケートは会議終了後に回収させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

2. 委員の紹介

【事務局】

今年度最初の会議ですので、自己紹介をしていただければと思います。それでは、順番にお願いいたします。

＜委員及び事務局 自己紹介＞

ありがとうございました。以降の進行につきましては、着座にて進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

3. 会長・副会長の選出

【事務局】

それでは次第の3、会長・副会長の選出に移らせていただきます。軽井沢町学校運営協議会規則第7条により、協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選任すると規定されております。委員の中から選任をお願いしたいと思いますが、どなたか推薦していただける方はいらっしゃいますでしょうか。

もしないようであれば事務局案としまして、会長には以前より会長をお願いしております○○委員に、副会長につきましても△△委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。

<拍手>

ありがとうございました。拍手多数ということで、会長は○○委員に、また、副会長は△△委員にお願いしたいと思います。それでは、○○委員は会長席にご移動をお願いいたします。

この後の進行につきましては、会長に一言ご挨拶をいただいた後、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

4. 議題

【会長】

改めまして、皆さんこんにちは。至らない部分も多々あるかと思いますが、一生懸命やらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

本日、歩いていたら、サルビアが見事に咲いていることに気づきました。なぜこの時期までサルビアが咲き誇っているのかとびっくりしました。中部小学校の3年生が本日学級閉鎖になったという話が入ってきまして、いよいよ冬が近づいてきたと思いつつ、この寒い中サルビアもすごいなと思いながらここまで歩いてきました。私も中地区児童館でサルビアを育てていたのですが、9月で力尽きました。ここまで咲き誇るというのは、教育もそういうことかと思っています。何かきっと手が入っていると思います。良い肥料が入っていたのか、日当たりがよかつたのか。きっとそこには愛情もあったりしたと思うのですが、軽井沢町はそういう町でありたいと改めて思いました。また、本日

は皆様には忌憚のないご意見をたくさん出していただいて、いい会になることをお願いしたいと思います。

それでは、これより議事に移らせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(1) 各学校経営方針について、各校長先生からご説明していただければと思います。

質疑については、すべての学校が終わってから行いたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは、東部小学校お願ひいたします。

【軽井沢東部小学校長】

軽井沢東部小学校です。よろしくお願ひいたします。お手元のグランドデザインをご覧ください。本校では、学校教育目標「風土に恥じない 爽やかな人になれ やさしくかしこく たくましく」ということで、昨年度と同じ学校教育目標を掲げております。その中で「自分でつくる・みんなでつくる」ということを重点的に行い、つけたい力として一つ目は「自らコントロールする力」、二つ目は「他者とつながる力」、三つ目は「新しいものを創り出す力」ということで、3つのつけたい力を設定しております。それを大切にしたい取り組みの中で具体的に「集団づくり」「授業づくり」「身体づくり」ということで、3つに分けて載せてあります。

今年、本校で特に力を入れているのが、異年齢交流です。今年度の児童数は129名で、1クラス20名前後ということで小規模の学校です。子どもたちも1年生の時からクラス替えがないので、友達との関係などが固定的になりがちで、積極的にみんなを引っ張っていく子や人の前に立つのが苦手という子もいますので、そういう子たちにも活躍する場をということを考えて、数年前から異年齢交流ということで、1年生から6年生の縦割りでの活動を行っております。その中で1つが対話ということで、集団づくりでも対話の充実ということで行っております。毎週水曜日のお昼の時間に東部っ子ということで、みんなで遊ぶ時間を作っています。その中で月に1回程度、縦割り班で考えて縦割り班で遊ぼうということを子どもたちが考えて行っています。1年生から6年生までが輪を作り一緒に話し合い、実際に遊んでみる。そして、遊んだ後に今度はここを直したいとかこういう遊びがしたいとかを話し合い、より良いものになるようにしています。

2つ目として、子どもたちが主体的に動くということを考えて今年行っています。子どもたちがやりたいことを行事の中でも生かしていこうということで、毎年決まっていた運動会の児童会種目について、6年生を中心にやりたいことを考えてそれを実践する

ということを行っています。今年度は綱引きをやりました。本校では6年間綱引きをやっていなかったので、誰も体験していない。そこで、ぜひやりたいという意見が出ました。しかし、全校でいきなりやるのはとても大変ということで、子どもたちも方法を考えました。そして、他の学校に短い綱があり、それを借りてきてできないかと考えて、縦割り班別の綱引きを行いました。音楽会についても、学級学年の発表だけでなくクラブごとの発表など子どもたちがやりたいことを行いました。この後は軽東祭で児童会祭りを委員会が中心となって、そこに1年生から3年生も運営側にも入ってもらう形で行っています。そのような形で、小さいからゆえに1年生から6年生までが、みんなで考えてみんなで話していくことで今年度行っているところです。以上です。

【会長】

ありがとうございました。続きまして、中部小学校お願いいいたします。

【軽井沢中部小学校長】

日頃より中部小学校を支えていただき、本当にありがとうございます。グランドデザインを説明させていただきます。本校は児童数が520名、職員51名、1学年につき3学級の編成で、特別支援学級は4クラスあります。学校教育目標は「やさしく・かしこく・たくましく」です。具体的には、「自分も周りの人のことも大切にできる子」「自ら学ぶ楽しさを味わい友と学びあう子」「心身共に健康に自ら生活を創っていく子」としました。

今年度重点的に行っていることが、資料真ん中の2つになります。一つは『学年の「チーム担任」 全職員の「チーム担任」』です。担任というと、1学級に1人というのが今までの常識でしたが、中部小学校の子どもたちや保護者は多様な方が多く、児童数も増えており、都市部から転入する方も非常に多いです。それによって、学校に対していろいろなご要望をいただいたり、子どもたちも様々な環境で育ってきているので、本当に多様な状況です。その子どもたちを支えるために、チーム担任にしました。

具体的には、学年3学級に3人の担任がいますが、ここに町からいただいている講師の先生を加えて、1学年が4人の担任という意識で子どもたちに接しています。学年内教科担任制を行って、算数は1組の先生が教える、国語は2組の先生が教えるという感じで、教師の持っている得意な分野を生かしながら行っています。そのことによって、担任全員が他のクラスの子どもの顔と名前が一致する、その子のことがよくわかるよう

になりました。例えば、児童指導問題があった時にも、1人の担任が対応するのではなく、その子が2組の先生に話しやすかったら、2組の先生に話すとか、お母さんは1組の先生と話すなど、その子や保護者に応じて学年全員で対応をしています。これは子どもたちのウェルビーイングにつながっていますが、実は教師の働き方改革にもつながっています。これまで1人の担任が悩みを抱えて夜遅くまで対応していたことが、チームで対応することによって、多方面からの対応ができるようになります。

二つ目の重点は、児童のウェルビーイングの実現です。県の第4次教育政策にもありますが、ウェルビーイングの実現を昨年度から入れています。自分の好きなこと、楽しいことを一人ひとりが探究できる時間やアウトプットできる場を作っています。

具体的には、伝える部会にある IU CHUBU という自分の興味関心を持っていることや自分で調べたことをその時間に自分だけのブースを作り、そこに来てくれるお客様に対して語るという時間をとっています。この活動は3年目となり、いろいろな課題も出てきています。それについても職員と話し合いながらより良いものになるようにしています。特色ある教育は資料にあるとおりです。これについては、地域の方に本当に力になって支えていただいている感謝しています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。続いて、西部小学校お願いいいたします。

【軽井沢西部小学校長】

軽井沢西部小学校ですが、学校教育目標は「じぶんでかんがえ みんなでつくる」です。今年度の重点は、「共生」です。これには理由がありまして、毎年4月に全国学力・学習状況調査というものがありますが、その中に児童生徒質問紙というのがあります。その中で、学校に行くのが楽しいという質問がありまして、本校はここ数年、学校に行くのが楽しいという問いに、そう思うという子が全国や県平均に比べてやや低いという状況です。一見楽しそうに学校生活を送っていますが、その問いに完全な肯定で答える子は割と少ない状況です。

その子たちがどうしたら学校に行くのが楽しいと思えるようになるのかなと考えていた時に、キーワードは2つあります。一つは自分で何かを決める自己決定です。もう一つは誰かの役に立つというもので、係の仕事などなんでもいいのですが、誰かの役に立つことで、ありがとうという言葉をかけられて得る自己有用感です。その二つなのか

なということで、この「共生」というものを土台に据えています。

共生を実現するために、今年度はクラス会議（学級会）では全員で輪になって、例えば一人の子の悩みでもいいですし、学級の悩みでもいいですし、そのような議題に対してみんなで考えを述べあって解決していくということを全学年全クラス、特別支援のクラスも含めて行っています。そのようなことを積み重ねながら、自分で考え決めるということや、誰かの役に立つ、認められるというようなところを養成していかなければいいかなと考えています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。続いて、中学校お願ひいたします。

【軽井沢中学校長】

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本校のグランドデザインをご覧ください。学校教育目標、重点目標につきましては、例年どおりです。

重点活動として4つ挙げさせていただきました。「あいさつ」「清掃」「合唱」「自ら学ぶ、友と学ぶ」です。特に1、2、3につきましては、生徒会の活動を充実させて、子どもたちが主体的にその活動を充実させるように今努めているところです。4番の「自ら学ぶ、友と学ぶ」につきましては、我々教師自身が考えを変えていかなければならぬということで、グランドデザインの「学ぶ力を高める」という6項目があり、今年度本校では特に3番の振り返りを大事にした授業改善と5番のICT機器の有効的な活用に重点を置いています。3番は子どもたちがその時間にどのようなことがわかつて、どのようなことができなかつたということをしっかり個人で振り返り、教師自身はその振り返りを見て子どもたちの状況を把握し、次の授業につなげていく。また、5番につきましては、積極的に子どもたちの学ぶ力となるように有効に活用していきたいと考えています。

また、LD等通級指導教室等の職員理解研修を進めるというものがあります。本校は今年からLD等通級指導教室が開設されました。LDとは何かというと、学習障がい、要するに読むことが苦手であったり書くことが苦手であったりと、そういう部分でアンバランスさのあるお子さんたちがいます。そういう子どもたちがこの教室に通って、こういうふうに学習するとよりわかりやすくなるよねということで、その教室にいる先生

と相談しながらやっています。我々教師自身もそういった子どもたちの困難さをぜひ理解しながら、通常の授業の中でも生かしていきたいということで研修をしています。

最後ですが、オープンドアスクールのコンセプトを取り入れた学校づくりです。これまでに準備委員会が5回開かれてきて、アンケートを取ったりそれぞれの学校でグループワークをしたりしています。この軽井沢中学校に通う子どもたちにとっても、安心安全な学校づくりというものについて、子どもたちそして教師もともに考えていけたらと思っています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それぞれの学校のグランドデザインを説明していただきましたが、それについてご意見ご質問等ありましたら出していただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【A委員】

中部小学校では、チーム担任を行っているとのことですが、他の小学校や県内はどのような状況ですか。

【軽井沢中部小学校長】

県内では、チーム担任体制を取り入れる学校は少しずつ増えてきていますが、そこまでは多くないと思います。

【軽井沢東部小学校長】

東部小学校は1クラスしかないので、本校では行っていません。

【軽井沢西部小学校長】

西部小学校では、現状取り入れていません。

【会長】

この件について、他にご意見はありますか。中部小学校のような形がいいなとか、1人の担任がきちんとやった方がいいなとか、いろいろなご意見があると思いますがいかがでしょうか。

【A委員】

私は中部小学校のチーム担任はいいと思いました。

【会長】

ありがとうございます。いろいろな意見を聞きながら、各校うまく進めていただければと思います。他にありますか。

【B委員】

軽井沢中学校にお聞きしたいのですが、通級指導教室が始まったということですが、高校は全県でまだ3校しか通級指導が行われていません。通級指導を受けるにあたって、個別の支援計画やその手順などを少し教えていただきたいです。また、その効果的なものは何か、見える部分があったのかも教えていただければと思います。

【軽井沢中学校長】

軽井沢町では、中学校に先立って小学校にLD等通級指導教室が昨年度スタートしております。それを受け、今年度中学校に開設されました。

手順としましては、4月に通級指導教室の担当教員が生徒と保護者面談を行って、どのようなことが困難かについて具体的に話を聞いています。困難なことだけでなく得意なことも聞いて、そのようなことを踏まえて教室の担当者が指導計画を作り、保護者と本人と確認を行います。5月から具体的に通級指導が始まります。授業が行っているところでやる場合もありますし、放課後を使ってやる場合もありますので、それは本人と相談のうえで行います。現級を抜けて来るのはちょっとという子もいますし、逆に放課後の方が落ち着いていいという子もいますので、そこは保護者と生徒の要望を聞きながら進めています。この会議室の廊下を挟んですぐ隣に通級指導教室がありますが、基本的には教室の担当者と面談をしていくことがメインになります。

そのような中で、普段の授業で困っていることを聞き出せば、そのことについて通常学級の先生たちにも共有して、例えばノートをとれない、黒板の字を見てもうまく書けない、どうしたらしいのかということで、タブレットで写真を撮るなどそういう工夫をアドバイスしていただいて、先生たちは板書をすぐ消さないように配慮します。そうすると、読めなくても見て覚えることは得意なので、少しずつ効果を上げていると思います。他にも、タブレットを使ってテストを受けたり、ルビを振ったりといろいろな要望

をできるだけ聞き取りながら、より学びが深まるようにしています。

効果については、まだ半年なので何とも言えませんが、通っている生徒は非常に熱心に通っていて、来年も続けたいという生徒がほとんどです。また、保護者も非常に喜んでいる状況ですので、効果はあると思っています。このような答えでよろしいでしょうか。

【B委員】

はい、ありがとうございました。

【会長】

高校は全県で3つしかないという話をお聞きしたのですが、私の記憶違いかもしれません、LD等通級指導教室は小中学校でも数が少なくて、昔は他市町村からも受け入れていたような気がするのですが、今軽井沢にある通級指導教室は広域ではなく軽井沢町だけということでいいですか。

【事務局】

その通りです。

【会長】

わかりました、ありがとうございます。他に質問などありますか。よろしいですかね。私からですが、軽井沢町には素晴らしい独自の教育プログラムがあるので、それが各小中学校でどのように生かされているのか機会があったら教えていただきたいと思っています。

それでは、議題（2）学校と地域との関わりについてに移ります。事務局の方からご提示いただいたものになりますが、学校と地域との関わりということで、地域の力をどう生かして、そして学校は地域とつながりながら子どもたちをどう育てていくのか。そういういたところの展望を各学校から話していただいたり、また、委員の皆さんからご意見等をいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは、東部小学校から順番に現状や課題、展望などを話していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【軽井沢東部小学校長】

地域との関わりについてということで、毎日のところでは見守り隊の方々に朝夕と子どもたちの登下校を見守っていただけたことがとても大きいです。1年生が登校中に転んでけがをしたことがありましたが、見守り隊の方が手当をしてくださったことがあります。とてもありがとうございます。

2つ目として、本校のクラブ活動ということで、4年生から6年生の全員が6つのクラブの中から選んで参加する活動があるのですが、その中で生け花、大正琴、将棋、アートの4つのクラブについては、地域の方々に講師をお願いしていまして、子どもたちがそこで地域の方に教わっていきます。大正琴のクラブの子どもたちは、音楽会で発表を行いました。他にも、地域の中でも発表する機会をいただきました。また、5年生の稻作や3年生のデリシア見学というようなところでもいろいろとお世話になつたりしています。運動系ではスケート教室やカーリング教室ではS C軽井沢クラブさんに見ていただいております。東部小学校では昨年度からは水泳の授業もスカップ軽井沢で行うということで、同じくコーチをしていただいたりととてもありがとうございます。水泳は担任ではなかなかうまく教えられないこともあります、専門的な方に教えていただくことで、年6回程度と少ない回数の中でも子どもたちの上達度がぐっと上がったという話を聞いています。様々な場面で地域の方々のご協力をいただきながら進めています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。では、中部小学校お願ひいたします。

【軽井沢中部小学校長】

中部小学校ですが、スケートやカーリング、水泳については東部小学校と同じです。中部小学校では、6年生は軽井沢彌をやっています。また、軽井沢ゼミという、3小学校で5年生と6年生が参加して軽井沢の地域や文化、人などを学ぶ時間をとっています。中部小学校のクラブ活動として、自然体験クラブや料理クラブ、手芸クラブで地域の方に教わって楽しい時間を過ごしています。

自分で課題と思っているのは、地域の方に助けていただくことばかりで、例えば西部小学校で行っている西部小を語る会のようなものが中部小でも作れたらいいなと思っています。お願いする、やってもらうみたいなことが多くて、地域の方から学校について

考えてらっしゃることを教えていただきて、それを学校運営に生かしていく、そういうパターンを作りたいと思っています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。続いて、西部小学校お願いいいたします。

【軽井沢西部小学校長】

さきほど中部小学校長から話のありました西部小を語る会というのは、今年は12月の第2週の金曜日に行う予定です。いつも、C委員などに参加していただき、地域の生の声といいますか、そういうのを聞く機会を設けております。

地域との交流ということで非常に助かっているのは、各担任が地域の方に独自で特別講師のような形でお願いして授業を行うことが多いです。昨年度や今年度で思い当たるものは、剣道の講師であったり、調理実習に来ていただいたり、理科の実験でサポートについていただいたり、花の鉢植えや大豆づくりを手伝っていただいたりと、教員だけでは難しい専門知識の部分でそういったところに長けている地域の方に来ていただきて教えていただける環境は非常にありがたいです。

また、特殊な例かもしれません、あるお子さんの支援会議に来ていただきて、地域の目から見たその子やその家庭について、助言等をいただくこともあります、とてもありがたいと思っております。

また、本校では3年生以上がお仕事ゼミというものをやっていて、地域のその道のプロに学ぶ機会を設けています。昨年度は2月に21ブース開いて、例えば地元の美容師さんや家具づくりの職人さん、農家の方など専門的な知識を持った方々に、子どもたちがいろいろと教えていただくことで、視野が広がる機会となり、ありがたく思っております。以上です。

【会長】

ありがとうございました。最後に中学校お願いいいたします。

【軽井沢中学校長】

地域との連携の現状については、ついこの間終わりましたが職場体験学習として、いろいろな事業所さんで働く経験をさせていただきました。また、1年生と3年生につい

ては、地域を知る、さらには発信していくことを大切にしながら、なぜ、どうしてと疑問を持ったことについて、調査活動をしながら地域の方たちからいろいろなことを聞いてまとめる活動をします。さらに3年生は、より良い軽井沢町にするためにはということで、12月5日に議会の議場で代表の生徒が提言を行う予定です。

学校に来ていただく連携というと、部活動のない毎週水曜日の放課後に町の生涯学習課に紹介いただいた学习ボランティアさんが本校にお越しいただいて、生徒たちの学習の様子を見ていただいたり、丸付けをしてもらったりと、そのような形で連携をさせていただいております。

また、近々予定していることをお話しすると、地域の方や保護者、子どもたちの交流の場を学校で設けたいということで、今教頭先生が中心となって、12月24日にカフェというものを開こうと思っています。そこには、地域の方も来ていただいたり、保護者やPTAの方に来ていただいたりして交流をして、まだ1回目なのでどのくらい集まるかわかりませんが、とりあえずやってみようということです。そこからさらに広がってくれば、このようなことを学校でできないかなということを地域の方にお願いしたらできる方を紹介していただいたり、子どもたちの生の声を聞ける場にもなるので、交流の場としてのカフェを予定しております。

今後の課題ですが、部活動の地域展開にあたり、地域に指導者がいない、少ないというところがあります。教員から地域へという形にはなってきていますが、なかなか平日放課後の子どもたちの都合に合う時間帯に指導していただける方がいないことがあります。中学校は以上です。

【会長】

ありがとうございました。おそらく、まだたくさん課題があると思いますが、どんなことでもいいので、皆さんから意見やアイデアを出していただけたらと思います。この場は結論を出すことや解決することが目的ではなく、意見やアイデアを出し合い、話し合うことに重点を置いていますので、あまり難しく考えず、多くの意見やアイデアを出していただければありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【C委員】

今、各学校では地域のつながりということでいろいろなことをやっていただいているとのことですが、私は逆に地域の方が積極的に学校にかかわっていただきたいと思って

います。地域にどういうお子さんがいるのか、地域の人が正直わかっていない状況です。

私は地域の方がお子さんを見かけたら、必ず挨拶をしてもらいたいと思っています。私は西部小学校のPTAの方にお話ししたことがあるのですが、朝だったらおはようございますやいってらっしゃい、夕方だったらおかえりなさいや学校楽しかったなど、地域の大人たちから自分の生活圏にいる子どもたちにそういう声をかけてもらいたいと思っています。学校で信州あいさつ運動が始まっていて、子どもたちには挨拶しなさいと言っていますが、地域の大人は子どもたちにどう声をかけていますか、どうしたら安全を守れますかということで、地域の大人から子どもにかかわってもらいたいと私はいつも考えています。学校運営と少し違うかもしれません、そういうことも教育委員会でも考えてもらえるといいのかなと思います。

【会長】

ありがとうございました。これにかかわってご意見ありますか。

【D委員】

C委員の意見に私も賛成です。

私は、朝の交通当番をやっていたことがあります、思ったより歩いて通っている子が少なくて驚きました。軽井沢では移住者が増えて昔より遠くから通学するようになったり、習い事が多様化してきたりといろんなご家庭の事情があると思いますが、学校側では保護者の車での送り迎えを制限するというか、なるべく歩いて学校に来ましょうとか、そういうことを言いますか。歩いて登校して、歩いて下校するというのが基本だと思うのですが。

【軽井沢東部小学校長】

東部小学校ですが、歩いて来るというのは体のためにはいいと思いますが、登下校について保険者の方にお任せという形で、特に歩いてきてくださいという話はしていません。交通事情や保護者の働き方、あと不審者対策など、家庭の考え方も様々あると思います。本校では、6割から7割近くの子どもたちは送り迎えという形になっております。

【軽井沢中部小学校長】

中部小学校は、毎日 100 台くらいなので、家庭数から考えると約 1/3 が送迎です。雨が降るともっと増えます。別荘地に家がある子どもが増えてきて、途中まではお友達と一緒にでも別れた後、森のような中で一人になってしまうことが考えられるので、学校としても歩いて登下校しましょうとは言えない状況です。最近はクマの話もありますし、とにかく安全に帰ってほしいというところです。

【軽井沢西部小学校長】

西部小学校は、割と歩いている子どもが多いと思います。PTA の役員の方たちも歩くのが当然だという考え方をお持ちの方が多いです。そのため、学校から通知を出すときもやむを得ず車で来る場合はというような表現で、やんわりと歩いてきてくださいねというメッセージを伝えるようにしています。もちろん、車で来る方もいらっしゃいます。

【D 委員】

安全に登下校してもらうことが最優先だと思います。西部小みたいになるべく歩いてくるという雰囲気づくりはお願いしたいですね。

【会長】

西部小学校は、八風山の遠足を行っているのも影響していると思います。

【E 委員】

東部小学校の離山はもうやっていないのですか。

【軽井沢東部小学校長】

離山は 3 年生と 4 年生が遠足で隔年に登っていますので、どちらかの学年では離山に登っています。

【F 委員】

登下校の問題は最近ということではなく、私の子どもはもう 40 前ですけれど、その子たちが小学校に通っていた時からありました。通学範囲が 30 分以内くらいなら良い

ですが、それ以上になると一人で歩くのはなかなか難しいと思います。海外の方は、保護者の送迎が当たり前なので、必ず自分の足でというのはなかなか難しいと思います。

【会長】

西部小学校の話なのですが、セブンイレブンの近くでおばあちゃんが毎日おはようと声をかけているのを何十年も続けているというお話を聞いて、地域で子どもを育てるという思いを持った方が軽井沢町にはたくさんいらっしゃるというのを、地域の大人が子どもたちに挨拶をしたらどうかという話を聞いて思いました。

【G 委員】

地域で挨拶はすごく大切だと思いますが、挨拶する側も不審者と思われてしまったらどうしようということで、やめてしまっている現状もあるのかなと思います。

【C 委員】

それに関してですが、挨拶に関して私がいつも言うのは、絶対に名前や住所を聞かない。自分の生活圏にいる子どもがいたら、「おはよう」「こんにちは」だけであとは聞かない。聞くと子どもは家に帰って、保護者にこんなことがあったと言います。挨拶をするためにというのではなく、自分ができる範囲の中で子どもが通った時に挨拶をする。それは地域の人からやった方がいいと思います。名前を聞くのは、よほど顔見知りになってからでいいと思います。

【G 委員】

すごく相手のことを考えて接していらっしゃるというのがわかりました。ここの線引きというものを地域側も知っていると、ここまでならいいのかなと思えるので、線引きというかマナーというか、それを地域の方に伝えられたらしいと思います。地域の方も挨拶してくださいだけでなく、ここに注意しましょうと言われるとやりやすいと思います。

あと、知らない子たちが相手だと声をかけるのが難しいと思うので、何か知り合うきっかけや機会があった方がいいと思います。お互に知っている、顔見知りになると話しやすいと思うので、そういう形で挨拶しやすい関係性が作れるといいのかなとお話を聞いて思いました。

【会長】

関係性を作るというのはなかなか難しい話ですが、教育委員会でも何か啓発みたいなことを行っていただくことを考えてもらえるといいのかなと思いました。

【事務局】

町のホームページでは、各学校のオープンにしている行事を見に来てくださいということで掲載しています。ただ、ホームページをご覧になれない方もいると思いますので、どういった形で見ていただくのか、地域の方に関わっていただくのかというところは、もう少し教育委員会としても研究していきたいと思います。

【会長】

ホームページでは、教育委員会でもすでに周知を行っているというところで、さらにはどのようなことができるかということも考えていけばいいかなと思います。

【G委員】

この話題に関連して、回覧板などによかつたら子どもたちに挨拶してもらえないかみたいなものを、先ほどの注意書きを添えて回してもらうのも良いと思います。回覧板を取っている人は、区に加入している地域の方なので、いい方法なのかなと思いました。

【事務局】

回覧板ですが、町の方では配布方法を電子化していくという話なので、紙ベースであれば今のお話もいいと思ったのですが、電子化するという話もありますので、できるかどうかややり方を検討させていただきたいと思います。

【会長】

回覧板の電子化ということで、年配の方には難しい話だと思いました。いろんなものが電子化して、端末を持ってアクセスしないといけないということで、紙資源とかを考えるといいのかもしれません、年配の方にはきついと思いました。

【E 委員】

教育関係とは話が逸れてしまいますが、町の区長会の中でも回覧板について1年間いろいろと議論してきました。やはり自治会活動の中でも、回覧板は大変な労力だということで、今まで月に3回でしたが、それを2回にしたらどうかということで、町を含めて話をしました。その結果、10月からは月に2回と決まり、すでに各地域ではそのようになっています。併せて町の方では、今話がありましたように、町のホームページから回覧物が見られるようになっています。

そして、来年度からは町の中の2つの区で試験的に回覧板を、LINEと紙を並行してやるということを町の方で考えているようです。いずれにしても、自治会の役員のなり手がどんどん少なくなっているので、いかに負担軽減していくのかということで、区長会も悩んでいるところです。話がずれてしまいません。

【会長】

そこは地区としては大事なところで、関わりを持つにしても、関わりを持とうという方がだんだん高齢化してきています。若いたちは仕事に行って、朝挨拶しようといつてもできない。このように、難しい問題がそこにはあると私は思っています。時間も過ぎてしまっているので、もしご意見があれば、あと1つか2つ別の面から出していただければと思います。

【G 委員】

軽井沢中学校から部活動の地域展開の話がありましたが、その指導者がなかなかいないという話だと思うのですが、どんな方を募集されるのかお聞きしたいのですが。

【事務局】

今ある部活動は、学校の先生方に担っていただいているが、今後は学校の先生ではなく、地域の方たちに指導してもらうということで、地域展開として国で進めています。指導者がいないのはなぜかというと、平日の放課後など子どもたちが活動できる時間にピンポイントで来てもらったり、休日も来てもらったりと、今まで学校にいた先生と同じようなものを求める部分があるからだと思います。

指導にあたっていただく地域の皆さんも仕事をされている方がほとんどだと思うので、都合をつけるのは難しいと思います。円滑に移行していくためにも、今の学校の先

生と同じように指導できる方が望ましいのですが、そのような方はなかなかいないのが現状です。

【F 委員】

現状、どの部活動が必要ですか。

【軽井沢中学校長】

ぱっと思いつくのが、バスケット、卓球、女子バレー、サッカー、野球などです。文化部では、吹奏楽部では3人くらい候補はいますが、うまく調整ができていません。あとは、工芸いわゆる家庭科部や美術部もいません。

【F 委員】

もう一つ聞きたいのですが、私はカーリングで中学校の部活動に少し関わっていて、大会前の時期的に行って、謝礼という形でお金をいただくのですが、国の方で移行しようということであれば、保護者の負担は少しでも少なくしてほしいので、例えば国や県、町から予算はつくのでしょうか。現実的に、指導者の方はすべてボランティアというのは難しいと思います。国の方針としてやるのであれば、指導者の方にきちんと謝礼が払えるように、国からもお金を出してもらいたいと思います。

【事務局】

費用負担については、どこの地域でも課題となっています。国もある程度の水準を示すために有識者の方が検討している状況です。町としても、現時点ですべて保護者負担とする予定はありませんが、やはり受益者負担としてある程度のご負担は発生すると思います。国や県の動向を注視しつつ、関係部署とも協議しながら進めていきたいと考えております。生徒たちに不利益とならないようにというところを大切に進めていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。ここにいる皆さんも部活動をされてきたと思います。1964年の東京オリンピックの関係で部活動ができて、子どものころからの基礎の積み上げが必要ということで、中体連ができいろいろとやってきたと思います。今はその過渡期

にきていて、約 60 年続けてきたものをここで方向転換しようとしているわけです。だから、いろいろと難しい問題が出てきていると思います。

他にはよろしいでしょうか。本日は時間がきてしましましたが、ここで議論が終わってしまうのももったいないと思うので、次回は発表よりも話し合いに重点を置いていくのがいいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上で議題は終わりにさせていただきますので、事務局にお返しします。

5. その他

【事務局】

ありがとうございました。最後にその他ということで、事務局から説明させていただきます。お手元にお配りしました、教育一貫独自プログラムについての説明です。こちらは今年度に教育委員会で作成させていただきました。今までこぶし教育ということで、進めてきたところでございます。こぶし教育の中の七つの基本方針（5）の幼保小中高それぞれ連携する中で交流を一層促進し、一貫したこぶし教育の推進に努めますとなっております。これを図式化したものがパンフレットの中にはあります。3つの柱として、教育DX、軽井沢学、SS支援（スクールソポーターによる支援）を記載しています。こちらの概念図を描くことにより、教育関係者も共通認識を持ってやっていきたいと考えております。また、一般の方にも共有していきたいと考えております。

こちらのパンフレットは先月議会でも配布いたしまして、これから教育関係の会議でも配布していきます。また、一般の方にも見ていただけるよう、ホームページに掲載をしたいと思います。就園前から高校を卒業するまで、教育委員会として一貫してサポートしていきたいと思いますので、ボリュームがありますが、皆様にもご一読していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。事務局からは以上です。

6. 閉会

【事務局】

それでは以上を持ちまして、令和7年度第1回軽井沢町学校運営協議会を終了いたします。お疲れ様でした。